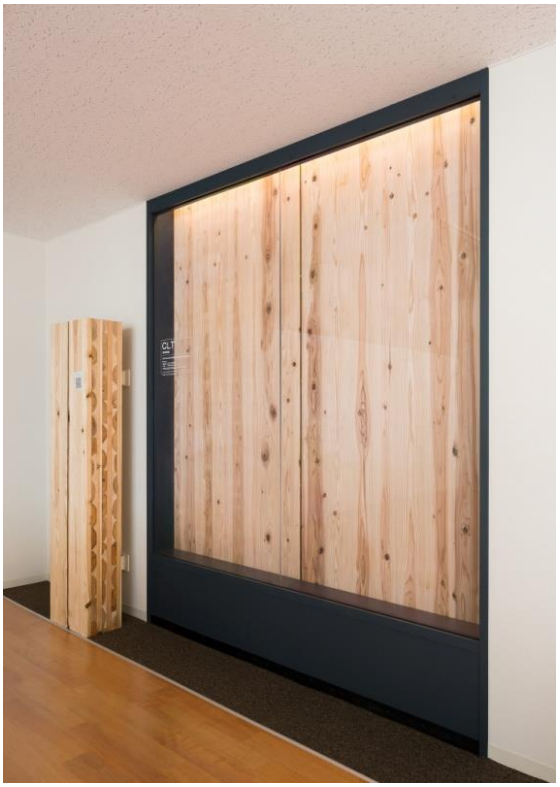
耐震補強工法

木質耐震壁接着工法

工法の概要



木質耐震壁接着工法は、既存の鉄筋コンクリート造または鉄骨鉄筋コンクリート造の柱・梁骨組内に木質パネルをエポキシ樹脂で接着し、耐震壁を新設する耐震補強工法です。

補強材に用いる木質パネルは、日本農林規格（JAS）による構造用単板積層材 LVL（A 種）または直交集成材 CLT を使用します。

－国産木材の利用と森林サイクルの維持－

日本は国土の約 7 割を森林が占めています。森林は、地球温暖化につながる二酸化炭素の吸収、生物生態系の保全など私達にとって欠かせない役割を果たしています。国内の森林を安定的に維持するためには森林サイクル（植える→育てる→伐採する→利用する→植える）の構築が必要です。本耐震補強工法は、国産木材で製造した木質パネルの利用を通じ、森林サイクルの維持活動に貢献します。

写真：株式会社 竹中工務店 新倉竹友寮（木質パネル：CLT）

主な特長

１．木の耐震壁

・木の風合いを生かした空間が創出できます。
・LVL･CLT による新設壁あるいは LVL による増設壁が可能です。

２．居ながら施工

・木質パネルはコンクリートや鉄と比べて軽量であるため、搬入ルートによる制約が少なく、狭い空間での施工も容易です。また、重機を使用しない人力での施工が可能です。
・あと施工アンカーの使用は最小限であるため、工事中の騒音、振動、粉塵の発生が少なく、居ながら施工に適しています。

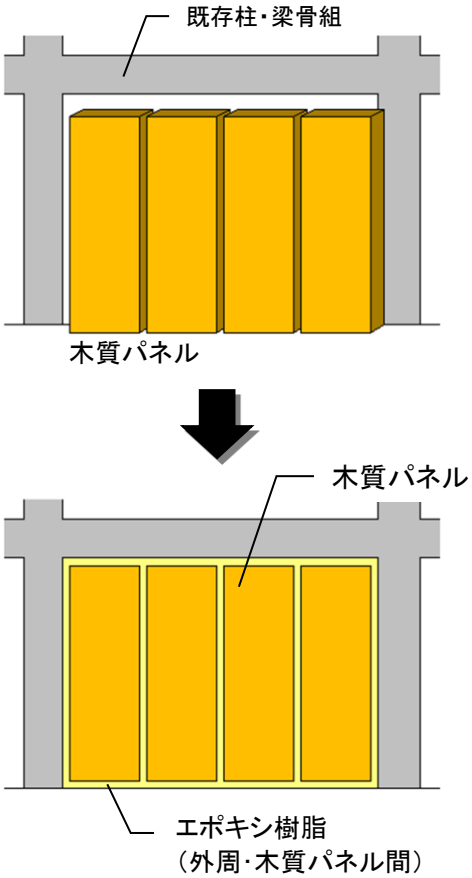
３．信頼の設計・施工

・本工法は、（一財）日本建築総合試験所の建築技術性能証明（GBRC 性能証明 第 14-18 号改 2, 2017 年 6 月 23 日）を取得し、株式会社竹中工務店より実施許諾を受け、耐震補強設計・施工体制を整えています。

施工方法

木質耐震壁接着工法の施工フロー概略は次の通りです。

既存下地撤去・処理
↓
下地調整
↓
木質パネル取付
↓
シール・注入パイプ取付
↓
エポキシ樹脂注入
↓
養生
↓
仕上げ



使用材料

- 木質パネル　：　日本農林規格（JAS）　構造用 LVL（A 種）または CLT
- 注入材　：　トーホーダイト AL5P（液状エポキシ樹脂）
  トーホーダイト CP300T または CP300TH（液状エポキシ樹脂）
- 断面補修材　：　イーグルクリート GL-4H または U-リペアライト（ポリマーセメントモルタル）

株式会社東邦アーステック
建設事業本部
〒160-0022　東京都新宿区新宿 2 丁目 13-10 武蔵野ビル
TEL 03-5367-2661(代)　FAX 03-5367-2666
http://www.tohoearthtech.co.jp

大 阪　TEL 06-6886-8221(代)
FAX 06-6886-8228

MSA-QS-2108
MSA-ES-1188
MS CM024
ISO 9001, ISO 14001 認証取得
（耐震補強工事，構造補強工事）